紋別市立渚滑小学校学校通信

渚滑っ子

学校HPコード

教育目標：人間性豊かな児童の育成
～気付き、築く子どもの育成～
令和６年９月２６日発行
文責：校長　木村　智史

表と裏（学芸会を通して見えた顔）

「わが子があんなことできるとは思っていませんでした。子供も凄いけど、教える先生って凄いなって（家で）話してたんです。」
この言葉は、21 日（土）に終了した「合同学芸会・学校祭」を終えた後、保護者の方と雑談をしていた内容です。

子供には「３つの顔がある」と言われます。それは、「友達」・「親」・「学校や習い事」それぞれの場で見える顔が違うということです。今回の行事では、ステージ上で表現している子供たちの顔を観ることができたと思いますが、当日までの過程においても、「新たな顔」を観ることができました。
今回の学校だよりは、「表と裏」と題して、当日の「表」を表現するまでの過程「裏」についてご紹介します。

低学年担任が、練習の終わりに振り返りをしています。この日、私は練習を最初から最後まで観覧していました。
その中で、担任が「子の鏡」となっている場面が多々ありました。
（その話の聞く姿勢は駄目）と話の途中で指摘しています。だんだん子供たちの視線が一点に集まってきました。
まず大事なのは、「話を聞くことができる子」に育てることです。
当然、日々の学習活動でも培う能力ですが、学芸会は、「どの場面でも同じくできる」を試すための行事でもあります。

右の場面は、中学年の子が、英語で歌っている場面です。
最前列で参観している子供たちに、握手を求めています。曲のリズムがいいので、観客も乗っています。

最初からこの動きではなく、練習では、ステージ下に降りる演出はありませんでした。
練習の振り返りで、「ノリノリを表現するために、ステージから降りてみよう。」ということになり、急遽とった動きでした。

本番では、ステージを降りるタイミングが分からずためらっている様子がありましたが、その時、階段に座っている子が、さりげなくスペースを作り階段下へ導いていました。動きを察した本人がステージ下へ降りて行ったという、仲間とのあうんの連係プレーでした。

幕間を利用して、「インタビュー」をして小学生を価値付ける場面もありました。
「とっても演技が上手でした。」
その言葉を聞く低学年の子達の眼がキラキラとしています。

高学年の演技では、「表情」が印象的でした。人間の感情である「喜怒哀楽」を表現するために大切な、「表情」でした。

全校合唱で表情豊かに歌う高学年の姿をみると、気持ちが明るくなります。

当日間近のある日、高学年の子が校長室にやってきてこう言うのです。
「今日の練習、うまくいきませんでした…。
全然できなくて、先生に何度も注意されて…。」
その子の表情を見ました。暗い顔をしています。

『多分、君はその場面をやり遂げたいんだね。指導する先生も大切な演技だと思っているから、君に何度もやり直させているんだと思う。きっと期待してるんだ。できるって！　頑張れよ！』
と言うと、その子は元気よく「はい！！」と返事をして帰っていきました。

教師や大人の言葉は「魔法」です。「いいぞ!」「よくやった!」「できるぞ!」
「まだまだ!! しっかり!!」 といった言葉で、子供たちは暗示に掛ったかのように動き出します。

全てが終了した後、後片付けをしました。要領よく終了です。

最後に私は、ある保護者の方にこう言われました。
「校長先生！　ありがとうございました。これからもよろしくお願いします。」
と握手を求められました。素直にうれしい瞬間でした。

当日の朝、下を向いて登校している子が、「緊張してる…。」と私につぶやいていました。
でも、帰りにその子を見ると、晴れ晴れとしたいい顔をしていました。いい緊張をしてやり遂げたのです。
一面でしか見えない表にも、裏ではたくさんのドラマがありました。
これからも渚滑小の学びは続きます。